矯正臨牀例

Two orthodontic cases.

By Dr. Toshio Ogata.

東京高等齒科醫學校矯正科

緒 方 俊 雄

第一例

本例ハ12歳ノ女兒デ上顎前齒ノ舌側轉位ヲ主訴トシテ來院シタモノデアル。本患者ノ發育狀態ハ極メテ良好デ直接原因ト考ヘラレル様ナ全身の疾患，惡習慣等ハ認メラレナイ。

家族の關係トシテハ父親ハ正常咬合デ，母親ハ不明デアル。然シ患者ノ妹(年齢5年10ヶ月)ハ乳齒咬合デハアルガ上顎前齒ノ舌側轉位ヲ示シ其ノ咬合狀態ガ本患者ト

第 1 圖 (A)

第 1 圖 (B)

非常ニ類似シ，且ツ本患者ノ乳齒咬合モ亦上顎前齒ノ舌側轉位ヲ示シテキタ。コノ事實ハ遺傳學的ニ見レバ非常ニ興味ガアル様ニ思ハレル。

現症及診斷 上下齒穹ノ咬合關係ハ第1圖Aノ如ク前齒部デハ所謂反對咬合ヲ呈シテ居ルガ，臼齒部ノ近遠心的關係ハ正常デアル。齒穹ノ形態ハ第1圖(B)ノ如ク，兩側々切齒ハ圓錐齒デアルガ尙，中切齒ト第一大臼齒トノ間隔ガ狹小デ永久齒ノ萌出餘地ガ少イ。顔貌上ノ變化ハ第4圖(A)ノ如ク下顎ノ位置ハ略ボ正常デ，且ツ形態的ノ變化ハ認メラレナイガ，上唇ガ下

唇ニ比シテ稍々陷凹シ，輕度ノ下顎前突ノ外觀ヲ呈シテキル。

以上ノ事項ヨリシテ，本例ハ下顎前突第一類(高橋先生)即チ上顎前齒ノ舌側轉位ニヨル反對咬合デアルト診斷シタノデアル。

施術方針 施術方針トシテハ，上顎前齒ノ唇側移動ヲ行ツテ，上顎前齒々槽部ノ前方發育ヲ促ス事デアル。

第 2 圖

施術方法 矯正裝置ハ第2圖ノ如ク通法ニヨリ舌側弧線裝置ヲ用イ補助彈線トシテ連續彈線(シ、ワルツ)ヲ應用シタ。此ノ裝置使用後約2ヶ月半デ上顎前齒ハ唇側ニ移動シテ咬合關係ハ正常トナリ，顔貌モ著シク改善サレタ。(第4圖(A)，(B)参照)

豫後 動的處置ノ完了後約1ヶ月本裝置

第 3 圖 (A) 施術後

第 3 圖 (B) 施術後

ヲ其ノ儘トシテ經過ヲ觀察シタガ復歸ノ傾向ハ全ク認メラレナカッタノデ施術開始後3ヶ月半デ總テノ裝置ヲ除去シタ。其ノ後3ヶ月半ヲ經過シタガ咬合關係第3圖(A)，(B)ノ如ク益々良好トナツテキル。

一般ニ臼齒部ノ近遠心關係ハ正常デ上顎前齒ノ舌側轉位ニヨル反對咬合ノ豫後ハ良好デアルガ，本例ノ如ク患者ノ發育狀態が良好デ且比較的早期ニ施術ニ著手シテ，其ノ發育期ヲ應用スル事が出來レバ，豫後ハ極メテ良好デアル。

第二例

患者ハ15年ノ女性デアツテ第5圖(A)ノ如ク上顎前齒ノ舌側轉位及ビ上顎兩大齒ノ唇側轉位ヲ主訴トシテ來院シタモノデアル。本患者ノ營養狀態ハ普通デ直接ノ原因

第 4 圖 施術前(A)

施術後(B)

ト認メラレルヤウナ全身疾患，惡習慣等ハナイ。

現症及診斷 上下齒穹ノ咬合關係ハ第5圖(A)ノ如ク前齒部ハ反對咬合デ，其ノ被

症 例(Ⅱ) 第 5 圖 (A)

第 5 圖 (B)

蓋ノ度ハ深ク且ツ兩上顎犬齒ハ唇側ニ轉位シテキル。第一大臼齒ノ關係ハ略ボ良好デ第二大臼齒ハ全部萌出シテキル。上顎右側第二小臼齒(第5圖(B))ハ著シク舌側ニ、犬齒ハ少シク唇側ニ轉位シテ居ル。左側ニ於テハ犬齒ノ萌出餘地ナク唇側ニ轉位シテ居ルヲ見ル。本例モ第一例ト同様中切齒ト第一大臼齒トノ間隔ハ非常ニ短少デアル。下顎ニ於テハ兩側第一大臼齒ノ齒冠部崩壞ガ著シイ外ハ齒牙、齒穹形態等ハ正常デアル。顔貌上ノ變化トシテハ(第4圖(A))上唇部ノ陷凹ノ狀態ハ比較的僅少デアル。然シ本

患者ニ於テ特ニ興味アル事ハ下顎ノ近心轉位又ハ下顎角ノ開大等ガ認メラレナイコトデアル。頤部ノ位置ハ他ノ顔面部ニ比ベテ略ボ正常デ寧ロ下顎前齒ガ近心ニ轉位シテキルヤウニ思ハレル(第5圖(A)参照)。以上ノ症狀ヲ總括シテ本例ハ上顎前齒ノ僅少ナ舌側轉位ト兩側第一大臼齒ノ近心轉位ノタメ兩犬齒ノ唇側轉位及ビ右側第二小臼齒ノ舌側轉位ヲ來シ、コレニ下顎齒穹ノ近心轉位ヲ伴ツタモノトノ診斷ヲ下シタ。

施術方針 上顎ニ於テハ前齒部ノ僅少ナ唇側移動ト、唇側ニ轉位セル犬齒ノ遠心移動ヲ行フコトデアル。下顎ハ下顎齒穹ノ近心轉位デアルカラコレガ遠心移動ヲ行フコトガ施術ノ根本ノ方針デアルコトハ明デアル。然シ兩第一大臼齒々冠部ノ崩壞ガ著シク、且ツX線ノ處見ニヨリ保存不可能ナ事が明トナツタノデ之ヲ拔去シ前齒及ビ小臼齒ノ集團ノ遠心移動ヲハカリ、同時ニ第二大臼齒ノ近心移動ヲ行ヒテ施術ノ目的ヲ達シヤウト試ミタノデアル。

施術方法 上顎ニ於テハ通法ニ從ヒ舌側弧線裝置ヲ行ヒ補助彈線トシテ兩側第二小臼齒部ニ0.56 mmノ白金加線ヲ鑲著シ、側切齒ノ唇側移動ヲ行フ。舌側弧線裝置後3ヶ月ニシテ左側ノ犬齒及第一大臼齒間ニ釘管裝置ヲ裝著ス、裝著後第一小

第 6 圖

臼齒ヲ拔去シ1週間後ヨリ犬齒ノ遠心移動ヲ行フ。

下顎ニ於テハ上顎ノ釘管裝置ノ裝著ト同時ニ中切齒, 第二小臼齒, 第二大臼齒(第6圖参照)ニ帶環ヲ調製ス, 全齒牙ヲ固定スルタメ0.75 mmノ白金加金線ヲ第二小臼齒ヨリ前方齒牙ノ唇側齒頸部ニヨク適合シ中切齒第二小臼齒ノ帶環ニ鑲著スル。然シテ兩側第二小臼齒ト第二大臼齒ノ間ニ釘管裝置ヲ用キタ。然シテ此ノ場合, 上下齒牙ノ被蓋ガ非常ニ深ク通常ノ釘管裝置ヲ裝著スル事ガ不可能ナタメ第6圖(B)ノ如ク第二小臼齒類側ニハ内徑0.75 mmノ管ヲ縱ニ鑲著シ第二大臼齒頰側ニハ鈎ニ鑲著シコレニ第6圖(B)ノ如キ釘管裝置ヲ

第 7 圖 (A)

第7圖 (B)

應用シタノデアル。

此ノ第二大臼齒ノ近心移動ニ際シテ該齒牙ノ近心傾斜ヲ防グ爲メニ第二小臼齒ノ舌側ニ内徑1.00 mmノ管ヲ齒頸部ニ水平ニ鑲著シ第二大臼齒ノ舌側齒頸部ニハ1.00 mmノ線ヲ第二小臼齒ノ舌側水平管ニ入ル様ニ鑲著シテ用キタ。以上ノ如キ裝置ニヨリ施術開始後約5ヶ月デ上下前齒部ノ反對咬合ハ正復サレ犬齒ハ約5ヶ月半後ニテ正常位ニ復ス, 下顎モ略ボ同時期ニ第7圖(A), (B)ノ如キ状態トナツタ。

豫後 本例ハ動的處置ノ終了後時日ヲアマリ

第 8 圖

施術前 (A)

施術後 (B)

経過シテ居ラナイノデ豫後ヲ判定スルコトハ困難デアルガ前歯部ノ被蓋程度ガ極メテ深イコトト臼歯部ニ於ケル咬合關係ガ非常ニ安定シテ居ルノデ(第7圖(A)参照)豫後ハ良好デアルト思ハレル。猶第8圖ハ施術前後ノ顔貌ノ變化ヲ示ス。

終リニ臨ミ種々御指導ヲ賜ツタ東京高等齒科醫學校矯正科主任高橋新次郎先生竝ビニ矯正科諸先生ニ感謝ノ意ヲ表シテ擱筆スル。